
マミーとチイとモモとサリー、そしてユズ

ゆずだもん。ウォーター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マリーとチイとモモとサリー、そしてコズ

【著者名】

ゆずだもん。ウォーター

N6737S

【あらすじ】

マリーはいつもチイに「わたしの木陰で休むときは、必ずミヤアオと3回なきなさい」とっていました。それは「とても大事なこと」なのでした。

一面お花の、きれいな野原のど真ん中に、大きい木が立っていました。

マリーはマリーとここをました。

マリーの近くには、いつも一匹の子猫がいました。

子猫の名はチイといいました。

マリーはいつもチイに「わたしの木陰で休むときは、必ず//ヤアオと3回なきなわ」とつていました。それは「とても大事なこと」なのでした。

チイは「とても大事なこと」をもあらと守りました。

しかしある時、「大事なこと」を忘れ、マリーの木陰で休んだことがありました。

マリーはその後3日間、チイと口を聞きませんでした。

チイはその時、とても悲しい気持ちになりました。

チイは、「とても大事なこと」は、とても大事なことであると知りました。

月日が流れました。

チイは大人猫になり、やがて子供猫ができました。

子供猫の名はモモとこみました。

チイはモモに「とても大事なこと」を教えました。

モモは「とても大事なこと」をきちんと守つました。
しかしある時、「とても大事なこと」を忘れ、マリーの木陰で休んでしまいました。

チイはモモに五日間工サを『えないと決めました。

「罷」の三日目の晩、モモは空腹で涙を流していました。

モモはチイに言いました。

「工サをくださー・・・うえええん。うええええん。」

チイはモモに言いました。

「あなたは『とても大事なこと』を忘れました。工サをあげることはできません」

モモは残りの一日前を空腹で涙しながら過ごしました。

「罷」が終わり、モモはお腹いっぱい工サを食べさせてもらいました。

モモは大きな木の木陰へ行きました。

そして、力一杯鳴きました。

「みやあ！みやあ！みやあ！」

月日が流れました。

モモは大人猫になり、やがて子供猫ができました。

子供猫の名は「サリー」といいました。

モモはサリーに「とても大事なこと」を教えました。

サリーはモモに思いました。

「なぜ、『とても大事なこと』は、とても大事なことなんでしょう
か？」

モモはサリーに言いました。

「そんなこともわからないの。あなたは本当にお馬鹿な子供猫ね。
『とても大事なこと』は、とても大事なことだから、『とても大事
なこと』なのよ。それはチイお祖母ちゃんの若いときから、ずっと
と変わらないわ」

「・・・」

サリーがそれ以上聞いても、モモは何も答えてはくれませんでした。

サリーは、「とても大事なこと」の意味を考えました。

しかし、一向に答えはみつかりませんでした。

思い切って、サリーは、モモのお母さんのチイに聞いてみるとしました。

「ねえ、チイのお祖母ちゃん。『とても大事なこと』って、どうしてとても大事なことなんでしょうか?」

チイは、思わず微笑みました。

「おほほ。『とても大事なこと』はね、とても大事なことだから、『とても大事なこと』なのよ。それは大きな木のマミーが若いときから、ずっと変わらないわ」

「・・・」

サリーは、思い切って、大きな木のマミーに聞いてみるとしました。

「ねえ、大きな木のマミー。『とても大事なこと』ってどうしても大事なことなのですか?」

大きな木のマミーは、目を丸くしました。

「・・・」

「ねえたら、大きな木のマミー。『とても大事なこと』はどうし

てとても大事なことなのですか？」

「『とても大事なこと』とは、＼＼＼＼＼。なんだい、それは？」

「え？」

「＼＼＼＼＼」

「＼＼＼＼＼」

「おお。おお、『とても大事なこと』かね。ふむふむ。それはわしお父さんのユズに聞いてみるがええ」

サリーはユズのもとへ走りました。

サリーの心は希望でワクワクしていました。ついに、ついに「とても大事なこと」がとても大事なことである理由が明かされるのです！

「大きな大きな木のユズさん！『とても大事なこと』がとても大事なことである理由を、教えてくださいっ！」

「おお、誰じゃお主は、＼＼＼？何を言つておる、＼＼＼？わしは今それど＼＼＼ではない、＼＼＼。最近は雨がからきし降らんでの、＼＼＼。』』ほつ＼＼＼ほつ。ああ、大変じや。わしは、＼＼＼。ああ。」

「ユズ＼＼＼、しつかりしてー！」まわりの小鳥たちが叫びました。

「しつかりして、大きな大きな木のユズさんー！」サリーも思わず叫びました。

それから「じぎじぎ」した後、ゴズは死んでしまいました。

「じべじべじべじべ」まわりの小鳥たちは泣きました。

サリーの心には暗闇が立ち込めました。涙も出ませんでした。

おわ
り

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6737s/>

マミーとチイとモモとサリー、そしてユズ

2011年10月9日01時22分発行